

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700057		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・相生②		
所在地	島根県浜田市相生町1445番地2		
自己評価作成日	2021年 8月 15日	評価結果市町村受理日	令和3年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和3年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、入居者一人ひとりの状況に応じて、常に職員一同で考えながら必要な支援をしている。 2、自分でできることを活かして毎日が張りのある生活になるように支援している。 3、コロナ禍にあって、面会制限や外出制限があるが少しでもこの生活が楽しくなるように工夫している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地で静かな環境にあるが、山崩れの危険性がある場所ということと、近くに川があり以前に水害の被害が出ていることから、運営推進会議では地域との交流を図り協力体制を整えながら、事業所独自の避難方法を確立できるように検討を続けている。コロナの中、職員は個々に自主的な行動制限を続けており、大きなストレスを感じながらも前向きに取り組んでいる。②ユニットは介護度4、5の方が多く、昨年1名看取りを行っている。経験年数の少ない職員もあることから、看護師を中心に看取りの研修を重ねることで取り組んでいる。重度の方が多いため体調面の変化は少なく、安定した生活が継続できている。以前から高校の介護実習の受け入れにも積極的にそのまま雇用に繋がったケースも出てきている。今後に於いても重度化への対応と共に、認知症の専門職として管理者を中心にスキルを高めていただきたい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を日々のケアの中で思い返し、実践に繋げている。コロナ禍ではあるが施設内でも安らぎと喜びのある日をその人なりに過ごしていただけるように支援している。	経験年数豊富な職員ばかりで、新人職員でも3年の経験があるため、理念について概ね理解できているが、日々の支援の中で繰り返し理念に繋げて話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方々とは職員や入居者様も顔なじみになり、よく声をかけていただいている。近所の施設と情報を共有して日常的に交流している。	地域行事の大半が中止となり、昨年から続き交流は激減している。近隣の散歩は続けているが、離れた場所から声かけする程度となっている。以前から高校の介護実習の受け入れをしておき今後も要請があれば受け入れる意向。	ボランティア利用など様々な方法で地域との関わりが作れるよう検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や知人の認知症状についての相談や質問を受けることがあり、できるだけ親身になって相談に乗るようにしている。また、グループホームへの理解を深めていただけるように話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でも会議を開催できており、行政や町内会長等といろいろな話し合いを持っている。特に災害時の対応については熱心に議論している。	この4月からは市の指示もあり、地域関係者に行政等の関係者の参加で開催している。家族については面会制限中で参加を見合わせている。現状を伝えることに加え、災害時の連携を重ねて議題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加があり、要望などを伝え、対応していただいている。	集合した形で運営推進会議を開催してからは毎回参加があり助言を得ている。コロナについては指示を得たり、問い合わせを続けるなど、行政と足並みそろえる形で進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月開催しているスタッフ会議で、不穏な方等の対応について具体的に話し合っている。また、身体拘束適正化委員会では正しい知識と理解を深め身体拘束をしないケアを実践している。	定期の委員会を行い身体拘束のないケアを実践しているが、日々のミーティングや会議の場では常に振り返りを繰り返している。その時々に必要なことをテーマに掲げ研修をするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議において、日々のケアについて気になる言動がないか意見を出し合い、不適切ケアや虐待に繋がるようなケアがないかを検討し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居に当たり、通帳の管理等を依頼する機会があり、職員皆で日常生活自立支援事業について勉強した。また、いろいろな制度について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の締結時はホーム長と担当職員が立ち会い、また、解約・改定などの際はホーム長や担当職員が、家族や入居者の意見を伺いながら説明をし、理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には内部・外部の相談窓口の説明を行い、面会時には意見や要望などを聞いている。また、変わりごとがない時でも家族に日常の状態を伝え、意見を聞かせていただいている。	担当職員を中心に1人1人の日頃の様子がわかる便りを写真入りで作成。家族関係者に送り意見を得ている。面会も窓越しで話すことは限られるため、主に電話で要望等聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、職員の意見や提案を常に聞くようにしており、管理者は本社に伝えることで反映できている。定期的に個人面談を実施したり、新しい職員にはできるだけ声をかけて思いを聴くようにしている。	管理者は年2回定期的に個人面談の機会を作り意見を聞くようにしている。入所者の介護度は高くなり、同時に職員の年齢も上がったため、介助の負担軽減を全員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせた勤務体制を整えたり、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に向けての支援や取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせ、内部・外部研修に参加できるように配慮している。また、研修に参加した職員は他の職員に伝えることで皆が研修内容を理解し習得できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者と交流する機会はないが、他のグループホームや小規模多機能事業所の情報を会議などで伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、本人の思いを十分にお聞きし、ホームとしてできる範囲で話し合いを持ち、入居後の生活の中で持ち上がった問題や不安には真摯に向き合い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経過等の傾聴に努め、より良い信頼関係の構築に努めている。特に金銭面での不安や生活面での要望にはしっかり耳を傾け話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、また、担当ケアマネから本人や家族の状態や状況を正しく把握し、適している施設やサービスを案内するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、生活する上での本人のできる部分を大切にし、作業を一緒に行うことで役割を持ち、生きがいを感じていただけるようにしている。常にできる部分は尊重し、できない部分を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活ぶりや日々の出来事を良いことも大変なことも細かく伝え、協力していただけることはお願いをしている。情報を共有することで、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染防止の観点から、面会や外出がままならないが、電話でお話しをしてもらったり、写真を居室に置くなどの支援をしている。	現在は家族の面会も窓越しでしかできない為、話す時間が限られている。ゆっくり電話で話ができる時間帯を調整して、話せるようにするなど、関わりが途切れないようにしてる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の日常の中での会話や動作の中から、関係性を把握している。席の配置や、作業のお手伝いなどで関りが持てるように配慮している。また、トラブルになりそうな時は職員が間に入り対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年、ホームを退居後に亡くなられた折、家族から連絡をいただき、ひなたぼっこにおられた頃の話をしたり、面会時の写真を希望され提供し、感謝の言葉をいただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、個々の思いや希望を推し量っている。特に認知症からくる不穏状態など困難な場合は職員皆で検討し、家族や主治医の意見を聴きながら対応している。	平均介護度が高く重度化してきているため、意向の確認は難しくなっている。普段の関わりの中かで、ぱっと言われる言葉を聞き取り、心意に思いを寄せ共感するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には実地調査を行い、生活感を共有するようにしている。また、ケアマネージャーからできるだけ多くの情報を収集して、入居後も関係を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子を細かく観察し、記録することで心身状態や現状の把握に努めている。特に有する力は人それぞれ違うので把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のアセスメントや三か月毎のモニタリングを担当職員が行い、それを基に主治医や訪看、他のスタッフの意見も取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	コロナの為、関係者が集まって担当者会議を開催することはできていないが、定期的なモニタリングを行い、家族には電話で意見を聞き計画作成に繋げている。身体的に安定し、今の生活が続けられるように、などの声がよく聞かれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録にケアの実践や結果、気づきや工夫が書かれており、それを出勤時に必ず読むことで情報の共有ができています。また、毎月のスタッフ会議で意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、柔軟な支援や臨機応変にサービスが提供できるように対応している。今年入居された方の困りごとでは消費者センターに相談し解決できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなかなか難しい状況にあるが、認知症カフェが再開したら行けるように支援したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される医療機関で受診や往診を受けながら、適切な医療を受けられる体制ができている。	かかりつけ医を継続することも、往診を受けられる協力医に変更することも可能になっている。夜間緊急時にも指示を得られるようになっており安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づき、また、疑問点をノートに記載し、訪看来所時に相談している。急変時には診ていただき適切なアドバイスを受け、受診に繋げている。昨年は看護職との協働により、看取りをすることができた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から地域連携室の相談員とは入居者の紹介などで連絡を取り合っている。入院当初から状態の把握に努め、安心して治療に励んでもらい、早期の退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	コロナ禍で面会がままならないが、タブレットでのオンライン面会や家族への電話連絡を増やす等の対応をし、話し合えるようにしている。	今年度も介護度5の方の看取りを実施。今後にも家族関係者の希望があれば取り組む意向を持っている。看護師を中心に看取りについての研修を行い、看取り経験のない職員の不安を軽減するようにして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての研修を行ったり、消防署の研修に参加し勉強会を開いたりしている。特に新人職員は急変時の不安が大きく、対応についてできるだけ伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で課題として話し合ったり、職員が地域の「防災研修会」に参加したり、施設で行う消火・避難訓練には近所の住民にも参加してもらい、地域との協力体制を構築している。	事業所ががけ崩れの危険性があるというイエローゾーンに建っていることもあり、運営推進会議でも災害時の避難について議題に上げたり、年2回の訓練でもいろいろな場面を想定して訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が頑張っていることや努力してこられたことを労いの言葉にし会話している。また、プライバシー保護のため、トイレ内にはタオルを用意している。	ケアの中での声かけや、相手に対してきつめに感じる言い方など、気になる場面については会議や研修で取り上げ皆で検討するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「外に出たい」「散歩に行きたい」等の発言にはコロナ禍で十分に対応できていないが、その分、ゆっくりと昔話を聞いたり、季節を感じていただけるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	口腔ケアやトイレ誘導、また食事や入浴などに拒否があっても、強制するのではなく、少し時間を空けて再び、声かけを行い、本人の気持ちに寄り添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍であまり外出ができないが、毎日の生活の中でも、本人の要望を聞き日常着と一緒に選んだりしている。また、理美容の希望には添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器なども種々取り揃えて日々の気分が変わるように気を付けている。野菜の皮むき等の下準備から炒めたり等の調理、また、盛り付けや食器洗い等、いろいろな作業を一緒に行っている。	調理の下準備片付けまでできる作業を職員と一緒にしている。入所者全員が女性のため自分から手伝う方も多い。職員も一緒にテーブルを囲み楽しい雰囲気の中で食事が摂られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査を基に、主治医、看護師と相談している。また、嫌いな食材については、できる限り代替えを提供し、食事の好みにできるだけ対応できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、確認をし、個々の状態に応じて、できない部分を支援している。また、歯科衛生士の指導の下、ブラッシング等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録を基に個々の排泄パターンを知り、声かけや誘導を行っている。直ぐにリハビリにするのではなく、可能な限り布のパンツを使用してもらっている。	重度の方は定期のおむつ交換で対応しているが、トイレ使用が可能な方は声かけに注意しながら見守り、必要な介助を行っている。布パンツ、紙パンツ、パット等個々に合わせた使い方を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、十分な食量と水分量を接種できるように声かけや手作りゼリーで対応している。また、個々に応じ、牛乳を提供したり、まめなくん体操などの運動を一緒に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿って、曜日や時間を決めてはいるが、随時、変更を行っている。また、急な体調不良時にも同様に、日を変えたり、時間の調整を行っている。	やや広めの家庭浴槽のため中に入れない方はシャワー浴を行っているが、できるだけ浴槽につかれるように2人介助で対応する場合もある。本人の意向を確認しゆっくりした時間を過ごせるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛の訴えをされる方や、眠そうな方には、居室で横になっていただいている。不眠傾向の方については主治医とよく連携をとり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に分かるようにノートに記載し、理解を深めている。また服薬の支援や受診、往診時の対応はできるだけ多くの職員が関わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や季節の行事の準備を利用者と一緒に行っている。外出を希望される方にはドライブ等を増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の影響でなかなか外出が難しくなっているが、収束したら以前のように一人ひとりの気持ちに沿った支援をしたい。天気の良い日には、近所の散歩やひなたぼっこに努めている。	以前は食事に出かけたり買い物に行ったり、多くの外出の機会を楽しんでいたが、コロナで激減。車から降りずにドライブに出かけたり、近隣を散歩すること、事業所前やベランダで日光浴をするなどして、外気に触れるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金を持参される方はほとんどいないが、中には持っている方もいる。現在は、コロナ禍で買い物に出かけ使う機会を持つことはできていない。初詣ではお賽銭を各自に渡し入れていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族が望むときには、電話や手紙やリモート面会の支援をしている。コロナ禍の影響もあり、リモートでの面会が多くなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁、玄関等には月々の担当職員が入居者と一緒に作成した飾り付けに工夫を凝らし季節感を取り入れている。西日の強い居室にはよしずを立てかけて不快にならないように配慮している。	住宅地にあるため自然に触れ合う機会は少ないが、玄関先や施設内にはいつも季節の花を飾り、感じられるようにしている。車の騒音などもほとんどなく静か。コロナの為、特に換気には注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にはいつでも座れるようベンチを配置し、ホールにはソファや椅子を置いて気の合った利用者同士でテレビを観たりして、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が快適と感じられる室温や照明に配慮し、細菌や感染症等の衛生面には特に注意している。家族に相談し、家にある使い慣れたものや好みのものを持ってきていただいたり、こちらで準備するようにしている。	大き目のクローゼットやベッド下にも引き出しがあり収納スペースがある。衣装ケース、タンス、テレビ等が持ち込まれている。家族写真や亡き夫の写真、賞状など思い入れのあるものが多く飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路やホールに転倒の原因となるものを置かないようにしたり、居室のベッドからの立ち上がり時に滑らないようにマットを張り付けたり、失禁による衣類を入れるバケツを置いたり、ひとり一人の状況に応じて工夫している。		